

2021年
7月19日
月曜日

小林 伸生 教授（現代産業論）

「公共財」と大学の学び

我々は立場上、皆さんに教育を授ける立場にあります。しかし、学者・教育に携わる者が保ち続けるべき姿勢として心にとどめていることは、「学び」は、常に双方向（あるいは、360度方向）であるということです。

私自身の比較的近い経験としては、昨年、コロナ禍で、急遽リモート授業の実施が決まった時、Zoom等のウェブ会議システムの活用の必要性に迫られました。その際に最初の一步を覚えてもらったのは、業務で我々よりも先に活用している、ゼミの若手卒業生でした。これは本当に有難いことでした。お陰で、急な対応要請であったにもかかわらず、比較的スムーズにリモート講義に対応することができました。無意識のうちに、次第に頑固になる自分に抗いながら、何歳になっても、ど

の方向からでも（特に、新しい世界からの吸収力が高い若い世代の人たちから）積極的に教えを請い、吸収できるものはする。そうした姿勢を持つていたいと考えています。

今日ここに出席し、聞いてくれている学生さんの多くは1年生かと思っています。今年から始まった新カリキュラム「経済学入門」の中で、「機会費用」という概念を学んだのではないでしょうか。この概念を用いて大学生生活を考察すると、皆さんは、「他のことをしようと思えばできた」4年という時間、その間に働くことで得ることができたかもしれない報酬等をあきらめ、その一方で学費を払い（あるいは、親御さん等に払っていただき）、大学に籍を置いて学ぶことを選択し、その生活を始めていくということになります。すなわち、皆さんが貴重な4年間を大

学に費やすことに価値を見出すためには、この「機会費用」を上回るだけの成果を、将来的に自分が得られ、また、社会に提供することができるとなる必要があります。

皆さんの学びは、世界の将来に対して、極めて大きな正の外部効果を持つた行為です。学生に対する様々な「奨学金」の制度が存在するのは、皆さんがより高いレベルで学ぶことが、将来より良き社会をつくるための正の外部効果を持つていると考えられているからです。その学びが、新しいビジネスや技術、あるいは社会をよりよくするための仕組みを生み出すことが期待されているのです。

べたように、社会に対して皆さんが生み出す、新しい、正の外部効果の付加価値の一部が、皆さんの生活の糧となって返ってくるのです。そしてまた、社会に還元される付加価値の一部が、未来の若者により高い教育機会を授けるための原資となります。その繰り返して、人材や、国・世界が持続的に発展していくことができるようになるのだと思います。

皆さんがどんな欲に学ぶことは、こうした正の外部効果を、将来社会に対してもたらず、貴重な力になります。学びは、こうした「公共財」としての側面があるのです。惜しみなく学びましょう。精力的に知識を吸収しましょう。そして、大学生活で得た知識やノウハウを、惜しみなく社会に還元し、豊かな社会を作っていくようではありませんか。